

# 堺市立総合医療センター・堺市消防局救急ワークステーション・堺市こども急病診療センター

療養環境の質向上と周辺環境の負荷低減を両立した高度急性期型病院

- 所在地：大阪府堺市西区家原寺町1丁
- 用途：病院

- 建築主：地方独立行政法人 堺市立病院機構
- 設計者：株式会社日建設計

- 敷地面積：19,693.47
- 建築面積：8,413.81㎡
- 延べ面積：44,568.59㎡
- 構造：鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
- 階数：地上9階、地下1階
- CASBEE評価：Aランク／BEE値1.8
- 重点評価：CO<sub>2</sub>削減3.4／省エネ対策3.6  
みどり・ヒートアイランド対策3.0



病棟全周に設けた彫の深いバルコニーは病室の日射負荷を抑制するだけでなく、近隣に対して圧迫感を視覚的に軽減し、市民を迎え入れるおらかなさを外観で表現している。

## 【立地、周辺環境】

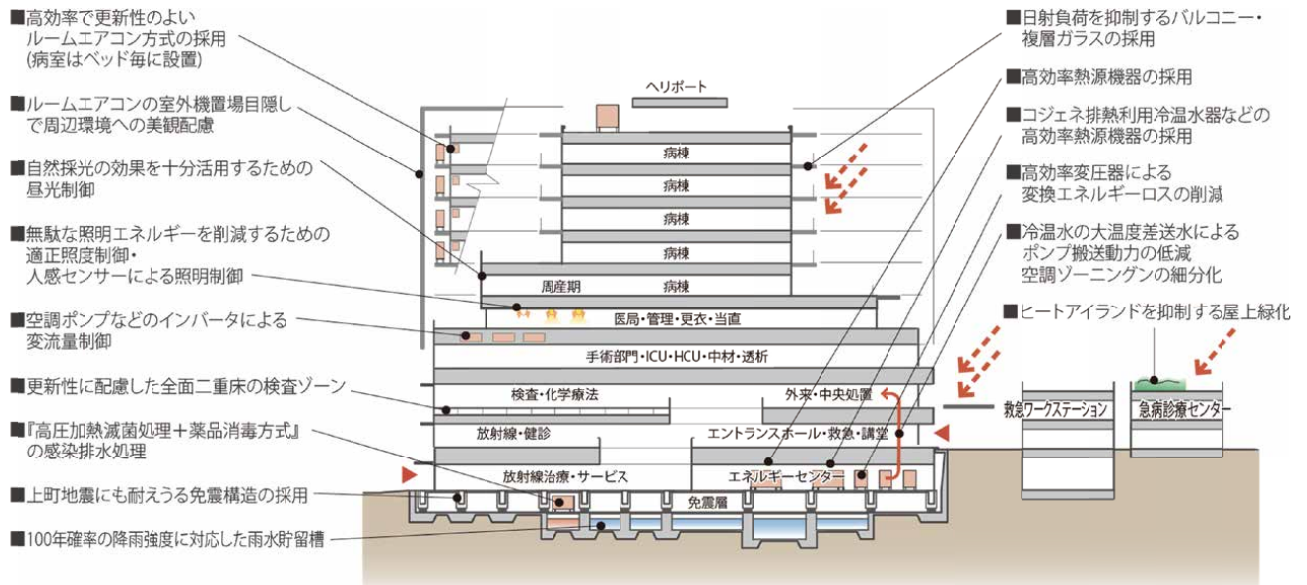
堺市の幹線道路である「泉北2号線」と「ときはま線」の交差点に位置する。また、JR阪和線津久野駅からは徒歩5分、また敷地内に路線バスを引き込んだ利用者がアクセスしやすい立地である。敷地南側は家原寺を中心に低層の静かな住宅街が広がっている。一方で敷地北側の津久野駅周辺はマンションの建設が進んでおり、新しい街並みを形成しつつある。

## 【総合的なコンセプト】

堺市の高度急性期医療を担う基幹病院の移転新築計画。救命救急センターを新設した新病院、救急隊員常駐の救急ワークステーション、こどもの休日夜間診療を担う急病診療センターを敷地内に一体整備。3施設の連携により一層の救急医療環境の充実をはかる。新病院は、明快で機能的な施設構成の中に高い拡張性と可変性による医療環境の「ゆとり」を備え、総合的な高度専門医療を永続的に提供。

施設整備にあたっては「快適性向上」「環境配慮」「自立性確保」「持続可能」をキーワードに、基幹病院としての機能向上と環境に配慮した様々な工夫を盛り込んで計画。十字型プランの2病棟を組み合わせた看護動線の短いツインクロス型病棟、各ベッド毎に窓を設けた新個室の4床室により看護の機動力向上と患者の居住性向上を実現。また極大地震をも見据えた耐震性確保とBCP対応、敷地内の積極的な緑化、近隣に対する騒音・視線・感染の対策を徹底し、市民の命を守り、永く親しまれる病院となることをめざす。

## 建物断面構成図



## 環境配慮事項とねらい

### 4つのキーワード

「快適性向上」「環境配慮」「自立性確保」「持続可能」をキーワードに、地域の基幹病院に求められる医療機能向上と環境配慮の両立をはかる。

### コンフォートホスピタル

#### 患者の快適性と治療環境の向上

- すべてのベッドサイドに窓を設けた個室的多床室。家具により個別感を創り出し、患者のプライバシーを向上。
- 患者の個別要求に対して柔軟に対応できる 高機能ルームエアコンを採用。
- 敷地北西角を広場として整備し憩いの場を創出。旧病院から親しまれてきた親子象のモニュメントを移設。
- 病室はモデルルームによる検証を行い、病院スタッフによる実物の使い勝手を事前に確認し合意形成。



すべてのベッドサイドに窓を設けた個室の4床室



プライバシーに配慮したゆとりある病室

### グリーンホスピタル

#### 周辺環境に配慮した市民に親しまれる施設計画

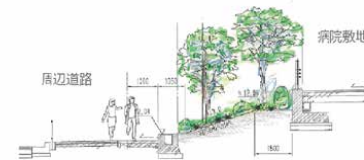
- 敷地外周に十分な広さの緑地帯を設け、近隣からの視線や敷地の段差を解消した外構の緑化計画。
- 奥行き深い全周バルコニーや複層ガラスの採用、極力西陽を避けた建物配置により、日射負荷を抑制。
- 病棟の白い妻壁はルームエアコンの室外機隠し。バルコニーの水平ラインとの縦と横の対比で印象的な景観を形成。
- 感染系排水は『高圧加熱滅菌処理+薬品消毒方式』の高度な排水処理設備を採用。
- 一種、二種感染病棟以外の感染対応陰圧室の排気系統にも HEPA または ULPA フィルタを設置し周辺環境への感染リスクを徹底排除。
- 敷地の高低差を活かした造成で掘削土の排出を最小限に抑え、階の異なる病院玄関を南北2箇所に設けて利用者の利便性に配慮。



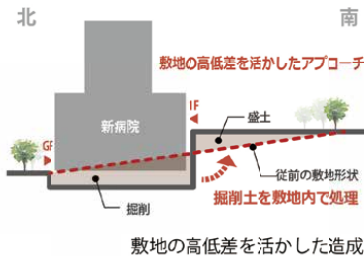
積極的に自然採光を取り入れた外来待合



室外機の目隠しの白い妻壁と彫の深いバルコニー



病院と近隣を緩やかに隔てる沿道の断面



敷地の高低差を活かした造成



市民に開放された広場と象のモニュメント

### セーフティホスピタル

#### 市民を守る安全で信頼性の高い医療継続計画

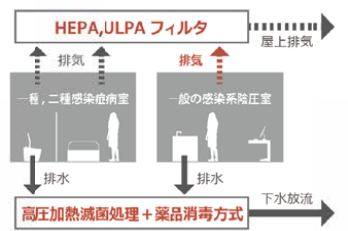
- 上町断層や南海トラフ地震を想定した極大地震に耐える超長周期免震。大地震などの災害時にも病院機能を維持できる計画。
- 100年確率の降雨強度に対応した雨水貯留槽
- 災害時の受け入れスペースとして利用できる大きな玄関庇
- 事業継続計画（インフラ途絶時の対応）
  - 受水槽容量は通常機能の50%、稼働時の3日分の水源を確保
  - コンクリート躯体利用の災害時用汚水貯留槽を設置
  - 非常用発電機燃料を3日分（72時間）備蓄
  - 認定導管仕様の都市ガスによるコジェネレーションで電源供給
  - 各種医療ガスを7日分確保

### ロングライフホスピタル

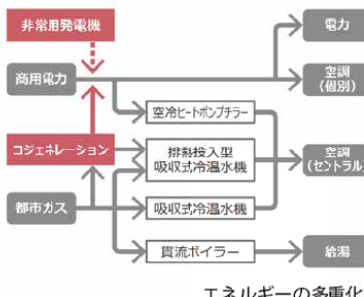
#### 将来への可変性を備え、

#### 環境負荷低減をはかる持続可能な施設計画

- 大スパン鉄骨造を採用し、柱の少ない空間を実現。
- 機器更新の想定される診療部門に二重床を採用。下階への漏水対策と将来の改修工事のしやすさに配慮。
- 熱源（電気・ガス併用熱源）の運転パターンを多様化することにより、電力ピークの増長を抑制。
- 照明のオート制御。各種センサー（明るさセンサー・人感センサー）による点滅・調光照明制御。
- 空調ゾーニングを細分化し、ゾーン別の運転制御が可能
- コジェネレーションシステムにより発電および排熱を空調に利用
- 大温度差送水、各種インバータ制御（変流量制御など）による搬送動力の削減
- 植栽への自動散水に屋根面の雨水を利用。



感染物質排出に対する近隣への配慮



エネルギーの多重化



緑豊かな平面駐車場



超長周期を実現させる多様な免震デバイス